

令和2年度第1回理事会議事録

日時 令和2年5月30日(土) 10:00~16:00

会場 Web 開催

出席者：

理事長：木村 正

副理事長：青木 大輔、加藤 聖子

理事：池田 智明、榎本 隆之、大須賀 穰、岡本 愛光、亀井 良政、工藤 美樹、
小林 陽一、古山 将康、鮫島 浩、柴原 浩章、生水 真紀夫、杉野 法広、関沢 明彦、
竹下 俊行、永瀬 智、藤井 多久磨、前田 長正、万代 昌紀、三上 幹男、宮本 新吾、
八重樫 伸生、渡利 英道

監事：櫻木 範明、平松 祐司、藤井 知行

顧問：小西 郁生、吉村 泰典

特任理事：海野 信也、宮城 悦子

第28代AOFOG会長：落合 和徳

幹事長：阪埜 浩司

副幹事長：矢内原 臨

幹事：岩佐 武、岩瀬 春子、上田 豊、馬詰 武、木村 文則、桑原 慶充、小出 馨子、
小松 宏彰、近藤 英治、佐藤 健二、関根 正幸、田中 博明、寺尾 泰久、土井 宏太郎、
徳永 英樹、永松 健、平田 英司、松岡 歩、矢幡 秀昭、山上 亘

議長：光田 信明

副議長：久具 宏司、小谷 友美

弁護士：平岩 敬一

名誉会員：中林 正雄

事務局：吉田 隆人、加藤 大輔、青野 秀雄

午前10時、理事長、副理事長、理事25名全員が出席し定足数に達したため、木村正理事長が開会を宣言した。木村正理事長が議長となり、議事録署名人として木村正理事長および櫻木範明監事、平松祐司監事、藤井知行監事の計4名を選出し、これを承認した。

I. 令和2年度第1回臨時理事会議事録の承認

令和2年4月23日に開催された令和2年度第1回臨時理事会議事録を承認した。

II. 主要協議事項

1) 令和元年(平成31年)度事業報告について

令和元年度事業報告については6月20日の定時総会に諮る予定である。この事業報告書は、定時総会での承認後、内閣府に提出する予定である。 [資料：協議 総務1]
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

2) 令和元年（平成 31 年）度確定決算について

(1) 5 月 15 日に令和元年度の決算監査を行い、併せて会計担当理事会を開催した。令和元年度決算については 6 月 20 日の定時総会での承認後、内閣府に提出する予定である。

[資料：協議 会計 1, 2, 3, 4]

池田智明理事より令和元年度正味財産増減計算説明書につき説明があった。

「公益目的事業の収入が費用を上回らず、内閣府が公益社団法人に求める収支相償を満たしている。また第 71 回学術講演会は 3, 596 万円の黒字であった。本会の正味財産期末残高は 6 億 1, 400 万円程度である。」

木村正理事長「『一般演題投稿・査読システムで利用しているプログラム FrameWork について、担当するシステム会社の本会への通知遅れにより今年度半ばでのサポート終了が判明した』については、致し方ないことだったのか。」

青木大輔副理事長「瑕疵というほどのものではないが、業者からの一方的な連絡であった。第 73 回学術講演会からはコングレの子会社に変更する。」

木村正理事長「各委員会の予算執行率について大変低い執行率の委員会も認められる。Web 会議の活用で旅費の節約ができた影響が大きいと思われるが、今後も今回の経験をもとに、対面と Web をうまく使い分けて対応してほしい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 令和元年度決算についての監査報告

[資料：協議 会計 5]

3 名の監事は令和元年度決算について問題ないことを確認した。

(3) 令和元年度決算についての独立監査人の監査報告

[資料：協議 会計 6]

池田智明理事「藤間秋男会計士の監査を受け、問題ないことを確認してもらった。」

3) 運営委員会の答申について

[当日資料：運営委員会 1]

青木大輔委員長から、昨日開催された運営委員会の答申についての説明があった。

(1) 令和 2 年度定時総会（開催日時：6 月 20 日（土））の開催方法について

[資料：運営委員会 2-1, 2-2, 2-3]

青木大輔委員長「6 月 20 日の定時総会に関して Web を併用する方法を検討している。」

吉田隆人事務局長から都市センターホテルの開催と Web 開催を併用する旨説明があった。

木村正理事長「Web による賛否は反対票のみを受け付ける方針でよいか。」

平岩敬一弁護士「事前に投票の方法についてその旨告知されていれば問題ない。」

青木大輔委員長「Web での出席に関してはどのようにするのか。」

吉田隆人事務局長「コングレが Web システム上で出席を確認する。」

藤井知行監事「今回も委任状を提出いただくのであれば、議論が予想しない方向に向かっても調整をできる。」

大須賀稜理事「昨日の学術委員会でも検討したが、学術奨励賞などの表彰はどうするのか。学術委員会では表彰者に来場してもらう予定としている。」

木村正理事長「学術奨励賞 4 名と Best Reviewer 賞が 4 名と優秀論文賞 2 名の最大表彰者が 10 名

程度増えると思われる。総会の最後の時間帯に会場してもらえればよい。」

大須賀稜理事「参加は表彰だけでよろしいと思う。」

青木大輔委員長「理事や幹事も所属施設の制限で参加できない可能性があるため、Web 開催の準備をしておく。」

光田信明議長「システムの操作に難渋しないように準備すべきである。」

吉田隆人事務局長「システム専門担当者が同席する予定なので対応を準備する。」

青木大輔委員長「名誉会員と功労会員の表彰は次年度とする。」

阪埜浩司幹事長「事前の委任状による議決権行使もあるが、当日の会場での議決権が優先される。Web 参加に関しては確実に議決権行使者を追えるが、むしろ当日参加者について議決権行使者を追えなくなる可能性があるため、だれが議決権行使したか確実にわかるように会場を準備する必要がある。」

吉田隆人事務局長「受付でしっかり名前を把握する予定である。」

木村正理事長「それでは以上の開催方法で、令和2年度定時総会の招集を行うことにしたい。」

令和2年度定時総会の開催方法とその招集について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 第76回学術集会長候補者の公募について [資料:運営委員会 3]

第76回学術集会長候補者の公募について、「会員へのお知らせ」をホームページ及び機関誌6月号に掲載する。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) COVID-19 新しい生活様式期に向けての本会の方向性について [資料:運営委員会 4]

海野信也特任理事「すでに運営委員会でも検討してもらったが私が個人的に作成した資料である。」

加藤聖子副理事長「マスコミからも聞かれることがあるが、妊婦の最大限の個人防護策は何を想定しているのか。」

海野信也特任理事「分娩前の2週間程度の自己隔離を想定している。スクリーニングで事前に陰性とわかっていてもスクリーニングの後の感染もあるので自己隔離が必要だと考える。」

宮城悦子特任理事「日本産婦人科医会と周産期小委員会の交流を促進したらよいと思う。」

杉野法広理事「分娩方法について、感染リスクを下げるために帝王切開が望ましいということについてはどのように考えるのか。」

海野信也特任理事「経膈分娩だからといって垂直感染した事例はあまりない。ただ、大部分がこれまでは帝王切開されているのも事実である。垂直感染の詳細がわからなかったため安全を優先させた判断をし、分娩室の環境面や医療者の感染リスクで帝王切開することは致し方ないと思う。ただ、今後は経験の蓄積や 設備や防護の整備を行い、その後に経膈分娩することが可能になってくる可能性がある。」

藤井知行監事「スクリーニング検査で無症候性感染が判明した場合、児をどうするか、授乳をどうするのか検討していく必要がある。症候性感染者と同じ対応でよいのかを検討したほうが世の中の混乱が少ない。」

木村正理事長「無症候性感染者の取り扱いについて周産期委員会で情報収集していただきたい。」

海野信也特任理事「無症状の方についてはasymptomatic と pre-symptomatic の区別も必要である。pre-symptomatic については感染力が強いとされていることも考慮することが必要である。」

木村正理事長「池田先生と海野先生と協同してご検討いただきたい。」

吉村泰典顧問「出産一時金の増額は2008年に4万円増額したときも大変であった。10万円の増額には1,000億円かかる。それよりも、分娩施設への支援を優先するほうが重要であり優先順位を考慮したほうが良い。」

海野信也特任理事「私が優先順位を資料のようにしたのは理由がある。今回我々は自分たちのことに必死で、妊婦に負担をかけている。立会分娩、面会の制限などで負担をかけたので、出産一時金の増額については我々の妊婦へのメッセージ性も含めて考えている。」

吉村泰典顧問「1,000 億円の支出は大きく、いったん増額したものを減額するのは困難で、継続的な支出になる可能性が高い。必要なことだが、それよりも分娩施設を守ることが重要で、そちらを優先したほうが説得力のある提言になると思われる。」
本件については引き続き検討していくことになった。

4) 第 73 回学術講演会について

[資料：学術講演会 1, 2, 3]

榎本隆之第 73 回学術集会長「第 72 回で Web 開催の良さもわかったので、第 73 回は会場開催に加えて Web 開催も取り入れていく予定である。」

関根正幸プログラム委員長「プログラムについては、抄録登録システムを京葉コンピュータからコングレ関連企業に変更する。募集期間については 2020 年 8 月 4 日～9 月 24 日の予定である。演題の内容に倫理委員会の承認やインフォームドコンセントの必要な演題について査読者がそれらを確認できない演題をピックアップする。それらの演題の目安は、介入や侵襲を伴う研究、ヒトゲノムや遺伝子解析を伴う研究である。それらに関しては個別に修正依頼し、修正できない場合はプログラム委員会で個別に検討予定である。学術講演会予告についてはほぼ例年通りだが、Web 開催も併用する旨記載する。2 日目に新しく創設された健康・医療活動賞受賞講演、教育奨励賞受賞講演を記載している。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

5) 第 74 回学術講演会について

[資料：学術講演会 4]

加藤聖子第 74 回学術集会長「COVID-19 の影響で、予定していた会場（マリンメッセ）が世界水泳選手権に使用されることになり、1 月末から 7 月末までは使用できないこととなった。それにより 4 月の学術集会開催はできなくなったため、開催日程を 2022 年 4 月 21～24 日から 2022 年 8 月 4～7 日に変更せざるを得なくなった。日程変更について承認いただきたい。」

木村正理事長「例年だと 4 月の学術集会は様々な専門医・指導医の取得に必要な単位を取ることができる学会である。8 月に延期することとなれば専門医・指導医の取得・更新に関係するので早めに周知が必要である。特に指導医の更新に必要な単位について注意喚起を早めに行っていく。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

III. 専門委員会報告並びに関連協議事項

1) 生殖・内分泌委員会（藤原浩委員長）

(1) 会議開催

子宮内膜症取扱い規約改訂 第 3 回編集委員会（ウェブ会議）	4 月 24 日
--------------------------------	----------

2) 婦人科腫瘍委員会（八重樫伸生委員長）

(1) 会議開催

第1回婦人科腫瘍委員会（ウェブ会議）	4月13日
子宮頸癌取扱い規約改訂 第3回編集委員会（ウェブ会議）	5月21日

(2) 一般社団法人日本産科婦人科内視鏡学会との連名で両学会員に対し、本会の「婦人科腫瘍登録」および日本産科婦人科内視鏡学会の「症例登録システム」への登録のお願いをホームページ掲載（4月27日付）によって周知した。

3) 周産期委員会（池田智明委員長）

(1) 会議開催

第1回周産期委員会（ウェブ会議）	6月11日【予定】
------------------	-----------

(2) 精神疾患合併妊産婦診療ガイドの全文を6月上旬に学会ホームページに掲載したい。

[資料：専門委員会1]

池田智明委員長「日本精神神経学会と当会との合同で精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイドを作成した。6月上旬に本学会ホームページで公開したい。」

木村正理事長「本来であればこの理事会の後の記者会見で発表すべきだが、今回は6月20日の総会の後の記者会見で紹介していただきたい。社会的にも大きな問題なのでお願いしたい。」
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 新型コロナウイルス感染予防対策のWEB アンケートの結果報告について

[資料：専門委員会2-1、2-2]

池田智明委員長「主に今回の新型コロナウイルス感染拡大に対応するため、周産期委員会小委員会として、周産期における感染に関する小委員会を立ち上げた。ここで宮城悦子特任理事が中心となりアンケート調査を実施したので結果を報告する。」

宮城悦子特任理事「JOGRに報告を出す予定としている。通常のサージカルマスクは流通してきたが、N95マスクは依然として不足しており供給の整備を理事長から行政にお願いしてほしい」

(4) 切迫早産の治療としての硫酸マグネシウムと塩酸リトドリン併用時の、新生児高カリウム血症への注意喚起について

[資料：専門委員会3-1、3-2]

池田智明委員長「平成29年に高カリウム血症と低血糖を生じた新生児が脳性麻痺となった事例があった。産科医療補償制度原因分析員会の岡井崇先生から周産期・新生児医学会に調査の要請があり、今年論文が掲載された。切迫早産の治療として硫酸マグネシウムと塩酸リトドリン併用時の、新生児高カリウム血症のリスクが1.53倍であった。このことについて本学会員に周知すべく注意喚起をホームページに掲載し周知したい。」

木村正理事長「注意喚起について会員向けにホームページに掲載する。」

4) 女性ヘルスケア委員会（加藤聖子委員長）

(1) 会員より「Drospirenone 含有 LEP 製剤の月経前不快気分障害（PMDD）保険適用に関する要望書」の承認依頼があったので、本委員会で検討した。

[資料：専門委員会4]

加藤聖子委員長「ヤーズのPMDDへの保険適応が検討された。米国ではPMDDへの適応がFDAで認められているが、日本では月経困難症のみの適応である。すでに日本女性医学会の理事会承認は得ており、本会でも認めてもらえれば各種学会と足並みをそろえて要望を出していきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) OC・LEP ガイドライン増刷について [資料：専門委員会 5]
加藤聖子委員長からガイドライン増刷にあたり 43 万円の費用がかかること説明された。

(3) 厚生労働省 医療機器審査管理課からのペッサリーの一般的名称について通知があった。
[資料：専門委員会 6]
加藤聖子委員長「骨盤臓器脱用ペッサリーの一般名称が避妊用ペッサリーとなっているため、6月1日から骨盤臓器脱治療用ペッサリーと名称を改める。」

(4) 書籍頒布状況 (5月22日現在)

	4/23 理事会報告	～4月17日	合計
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステロン配合薬 ガイドライン 2015 書籍版	6,422	6	6,428
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	3,445	36	3,481
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+電子版用 ID・PW付(ダウンロード済み)	1,110	32	1,142
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	1,013	17	1,030

IV. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総務 (青木大輔副理事長)

[I. 本会関係]

(1) 会員の動向

- ① 平井博功労会員 (京都) が、2020年2月12日にご逝去された。
- ② 濱田悌二功労会員 (福岡) が、2020年4月28日にご逝去された。

(2) 令和2年度定時総会議事次第について

青木大輔副理事長から総会の議案および報告事項について説明があった。 [資料：総務 1]
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 第73回学術集会における学術集会幹事について

以下の5人の先生方に幹事をお願いしたい。

吉原弘祐先生、西島浩二先生、磯部真倫先生、倉林工先生、上田豊先生
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) サブスペシャリティ学会の専門医数について [資料：総務 2]

(5) 新型コロナウイルスに関する情報提供等について

- ① 「新型コロナウイルスに対する濃厚接触の判断基準と予防策」を作成し、日本産婦人科医会と連名でホームページに掲載し、両学会員に対して周知した。(5月2日付) [資料：総務 3-1, 3-2]
- ② 「妊婦の皆さまへ～緊急事態宣言の一部解除についきて～」を作成し、日本産婦人科医会

と連名でホームページに掲載し、一般の皆様に対して周知した。(5月14日付) [資料:総務4]
木村正理事長「濃厚接触による出勤停止を防ぐため厚労省の指針をわかりやすくまとめて掲示した。
また、「妊婦の皆さまへ～緊急事態宣言の一部解除についきました～」を作成し、日本産婦人科
医会と連名でホームページに掲載し、一般の皆様に対して周知した。」

③会員に対し実施した、COVID-19に関するアンケート調査結果について [資料:総務5]

木村正理事長「記憶の新しいうちに、先ほどのPPEのアンケートを補完する形でアンケート調査を
行った。回答のあった学会員の中に2名の感染者があった。帰省分娩の受け入れ停止をした施設
は案外少なかった。ホームページへの掲載と論文化を予定したい。」

宮城悦子特任理事「周産期員会小委員会の中で今後は全例レジストリーを神戸大学の山田秀人先生
と予定している。」

木村正理事長「レジストリーに関しては公式の予算を確保して行うのがよい。」

宮城悦子特任理事「予算についてはおそらく上手くいきそうで近日中に発表できると考えている。」

藤井知行監事「外部発表する場合、特にレジストリーに関しては倫理委員会の承認が必要である。」

宮城悦子特任理事「レジストリーに関しては神戸大学の倫理委員会の承認を得ている。また今後学
会の倫理委員会を通す予定である。周産期小委員会で行ったアンケート調査については、倫理委
員会を通さず、小委員会の業務報告としてJQGRに報告したい。」

藤井知行監事「それであれば問題ない。」

三上幹男理事「これまでアンケートでは個人情報の提供がない場合、倫理委員会には必要ないとして
いた。個人情報のないアンケートについての倫理審査は行っていない。」

木村正理事長「私の行ったアンケート調査結果については回答数も少ないので、一部デリケートな
部分もあるため完全な公表はせず、各都道府県の学会長にはお知らせする。」

加藤聖子副理事長「グーグルフォームの使用について、診療所の先生方には操作の不安があるかも
しれないと思った。それについてはどうであったか。」

木村正理事長「一次施設からの回答は700件程度で、全分娩施設の1/3程度が限界であったかと考
えている。」

小松宏彰幹事「現在2,430名、施設責任者からは1,149名から回答をいただいているので、後日も
う少し詳細に報告する予定である。」

岡本愛光理事「FIGO 悪性腫瘍委員会から、各国の婦人科悪性手術の動向を知りたいと聞かれている。
論文化の前に回答してもよいか。」

木村正理事長「FIGOに回答するくらいであれば構わないと考える。最終版については後日ホーム
ページに公表するが、社会的に波紋を呼びそうな一部内容については公表を差し控えたい。」

(6) 定款施行細則の改定について [資料:総務5-1]

青木大輔副理事長「定款第11条、第26条の軽微な変更を行い、まず理事会で承認いただき、後日
総会でも承認いただく予定である。」

久具宏司副議長「細かいことだが、記章は徽章の方が正しいのではないか。」

藤井知行監事「常用漢字を使用するのが一般的よい。」

小林陽一理事「調べるとどちらでもいいと書いてある。」

木村正理事長「それならば従来通り、『記章』を使うことにしたい。」

定款施行細則の改定について特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔Ⅱ. 官庁関係〕

厚生労働省からの会員周知依頼について

①本会ホームページに掲載し、会員に周知した

部署	内容	資料
----	----	----

労働基準局/雇用環境・均等局	「妊娠中及び出産後の女性労働者が保健指導又は健康診査に基づく指導事項を守ることができるようするために事業主が講ずべき措置に関する指針」の一部改正	総務 6-1, 6-2, 6-3
子ども家庭局 母子保健課	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い出産不安を抱える妊産婦の方々への配慮について	総務 6-4
子ども家庭局 母子保健課	「母子保健事業等の実施に係る自治体向け Q&A (令和2年4月24日時点)」について	総務 6-5
子ども家庭局 母子保健課	「子どもの見守り強化アクションプラン」の実施にあたっての協力依頼について	総務 6-6
子ども家庭局 母子保健課/ 家庭福祉課	「母子保健事業等の実施に係る自治体向け Q&A (令和2年5月1日時点)」について	総務 6-7
子ども家庭局 母子保健課	出産場所の確保等の不安を抱える妊婦の方々への相談窓口の設置について	総務 6-8
医薬・生活衛生局	医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行令の一部改正する政令の施行について	総務 6-9
医薬・生活衛生局	レムデシビル製剤の使用にあたっての留意事項について	総務 6-10
医政局	再生医療の安全性の確保等に関する法律施行規則及び臨床研究法施行規則の一部を改正する省令の施行における運用上の留意点について	総務 6-11
医政局	再生医療の安全性の確保等に関する法律施行規則及び臨床研究法施行規則の一部を改正する省令の施行について	総務 6-12
医薬・生活衛生局	特例承認に係る医薬品に関する特例について	総務 6-13

②「新型コロナウイルス感染症に係る妊産婦・新生児への適切な医療の提供およびケアについて」というタイトルでWeb会議が開催された。 [資料:総務7]

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会、日本医学会連合

①日本医学会からの会員周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載し会員に周知した。

依頼元	内容	資料
厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬安全対策課	再生医療製品患者登録システムに係る効率的な運用への協力について	総務 8-1

②日本医学会からの会員周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載し会員に周知したい。

依頼元	内容	資料
厚生労働省医政局	再生医療等の安全性確保等に関する法律施行規則等の一部を改正する省令の施行について	総務 8-2
厚生労働省医政局 研究開発振興課	「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」, 「再生医療等の安全性の確保等に関する法律施行令」及び「再生医療等の安全性の確保等	総務 8-3

	に関する法律施行規則」の取扱いについて」等の一部改正について	
厚生労働省医薬・生活衛生局医療機器審査管理課並びに医薬・生活衛生局医薬安全対策課	国際医療機器規制当局フォーラム (IMDRF) による医療機器サイバーセキュリティの原則及び実践に関するガイダンスの公表について	総務 8-4
医薬品医療機器総合機構	レギュラトリーサイエンス戦略相談に関する実施要綱の一部改正について	総務 8-5
厚生労働省 子ども家庭局 母子保健課	新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言解除を踏まえた各種健診等における対応について	総務 8-6

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ③日本医学会を通して厚生労働省医政局より、汎用され安定確保に特に配慮が必要な医薬品の選定についての選定依頼があった。専門領域ごとに10成分を目安に選定してほしいということで、まずサブスペ領域4学会に選定を依頼した上で、産婦人科領域を見て本会が調整して提出することにした。
[資料:総務 9]

- ④日本医学会、日本医学会連合では、内閣総理大臣に対し新型コロナ感染症の診療体制の充実を要望する提言書を作成した。作成の際には本会も意見を提出し、賛同する学会として学会名を併記した。
[資料:総務 10]

(2) 女性アスリート健康支援委員会 [資料:総務 11]

女性アスリート健康支援委員会から今年度の運営負担金・会費 124,000 円の納入依頼を受領した。本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 日本産婦人科医会

日本産婦人科医会から、オンライン研修会等における母体保護法指定医師研修シールの代替法に関する協力依頼を受領した。
[資料:総務 12]

青木大輔副理事長から、受講シールはe医学会のマイページで代用するという説明があった。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構

日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構から、同機構の次期理事候補者6名の推薦依頼を受領した。本会から、小西郁生先生、木村正先生、青木大輔先生、岡本愛光先生、片渕秀隆先生、三上幹男先生を推薦したい。任期は2年である。
[資料:総務 13]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 昭和大学病院ブレストセンター/NPO 法人乳房健康研究会

「昭和大学病院ブレストセンター10周年/NPO 法人乳房健康研究会 20周年企画 Global Conference on Breast Health」への後援依頼を受領した。承諾する場合、協力出来ること(4択)を回答するよう求められている。
[資料:総務 14]

木村正理事長「個別施設の催しに後援することはこれまでなかったと思う。」

藤井知行監事「関沢先生の意見はいかがか。」

関沢明彦理事「私は関与していないが、問題のある活動ではないと思う。」

藤井知行監事「個別施設のものはこれまでお断りしていた。」

木村正理事長「関沢先生に情報収集をお願いするが、個別施設の催しに関してはお断りすることで

よいと思う。」

加藤聖子副理事長「関係者に乳腺の分野の有名な先生が多く参加しており、大きなイベントの可能性もあるので関沢先生に詳細を聞いてもらうのがよい。」

木村正理事長「次の理事会で最終判断する。」

(6) 日本小児栄養消化器肝臓学会

日本小児栄養消化器肝臓学会より、「C型肝炎母子感染小児の診療ガイドライン（草案）」へのプロモ募集依頼を受領した。本件は、周産期委員会に草案内容を確認いただいた上で、本会ホームページに掲載して会員に周知した。 [資料:総務 15-1, 15-2]

2) 会 計 (池田智明理事)

(1) 会議開催

会計担当理事会	5月15日
---------	-------

(2) 取引銀行の格付と預金残高について

[資料:会計 1]

3) 学 術 (大須賀稔理事)

(1) 学術委員会

①会議開催

学術講演会評価委員会（通信会議） [資料：学術 1-1、1-2]	
令和2年度第1回学術担当理事会（ウェブ会議）	5月29日（金）
令和2年度第1回学術委員会（ウェブ会議）	5月29日（金）

大須賀稔理事から、学術講演会評価委員会について担当校からの説明を依頼した。

青木大輔第72回学術集会長「第72回学術講演会についてはWeb開催した。4月初に演者に音声つきパワーポイントの作成を依頼し、ほとんどの先生が作成してくれた。ポイントが付与される講演の受講回数は非常に多く、聞いてほしい講演にはポイントを付与するのがよいと思われた。」

大須賀稔理事「動画再生回数などのデータが正確で貴重であった。それを踏まえて、工藤先生にアンケートをとってもらった。」

工藤美樹理事「参加者は1万2千人をこえて過去最高の参加者であった。これはWeb開催のメリットによるものと考えられる。アンケートからは、Web開催はとても好評で、今後もWeb開催の継続が望まれた。育児中の女性には参加しやすく、60-70歳台の参加もあり参加年齢層の幅が広がった。一方で双方向のコミュニケーションがとれないことがデメリットであった。取得単位は一人当たり7ポイント以上で、従来は3ポイント程度だったのでWeb開催のメリットを会員は教授している。以上からWeb開催は会員にとって非常に好評であったので今後も学術集會開催にあたってはWeb開催も検討していくとよい。」

大須賀稔理事「Web開催は好評であった。しかし、ポイントの付与方法などは今後検討するべきだと考えられた。」

工藤美樹理事「動画の著作権について学術委員長から理事会の意見を聞いていただきたい」

大須賀稔理事「主催校にビデオを使用したいと申し出があった。Web開催にあたっては、第一に視聴する方に対して転用転載をしないことに同意していただいている、第二に学会に著作権を委譲していない。そのため、今回の発表に関しては、著作権は発表担当者に所属する。よって、依頼

者と発表者で直接連絡を取り合ってもらおうということに学術委員会で決定した。いいコンテンツに関しては今後eラーニングに使いたいので、学会と担当で調整し著作権をいただくことも検討していく。」

木村正理事長「学術集会の醍醐味は発表前の研究を聞くことができることにあるので、その支障になるような著作権を学会に委譲するということは今後も行わないということを学会の基本方針としていくのがよいと思う。」

②令和2年度学術奨励賞の推薦および応募について [資料：学術2]

学会誌8月号に「会員へのお知らせ」として掲載する。(期間：2020年10月1日～10月31日)

久具宏司副議長「期限について、応募する年度の末日という記載を具体的な日に変更した方がよい。」

大須賀稜理事「2021年3月31日と表記したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③令和2年度優秀論文賞公募について [資料：学術3]

機関誌8月号に「会員へのお知らせ」として掲載する。

(期間：2020年12月10日～2021年1月9日)

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

④他団体の特別賞推薦について

2020年度 日本学術振興会「育志賞」ならびに2020年度 日本医師会「日本医師会医学賞」「日本医師会医学研究奨励賞」について、通信審査を行い、第2回臨時理事会(6/20)に答申する。

[資料：学術4]

(2)プログラム委員会関連

(イ) 第74回学術講演会プログラム委員会

機関誌8月号に「会員へのお知らせ」として掲載する。期限：2020年11月30日(月)

- ・第74回学術講演会特別講演演者の推薦について
- ・第74回学術講演会シンポジウム担当希望者公募

[資料：プログラム委員会1-1、1-2]

青木大輔第72回学術集会長「既に刊行された学会雑誌2月号に掲載されたプログラムや開催要項は通常開催が行われたこととして記載されている。このままでは、第72回学術講演会がどのように開催されたのか将来分からなくなるので、Web開催の内容を記録に残したいと思う。」

加藤聖子副理事長「和文誌に掲載ししっかりと記録に残していただきたい。」

(ロ) 第75回学術講演会プログラム委員会

機関誌8月号に、第75回学術講演会シンポジウム課題公募のお知らせを掲載する(期限：2020年11月30日(月))。 [資料：プログラム委員会2]

岡本愛光理事「応募方法はメールに変更する予定である。」

4) 編集(加藤聖子副理事長)

(1) 会議開催

第1回編集担当理事会(通信にて)	5月20日～5月25日
------------------	-------------

(2) 英文機関誌（JOGR）投稿状況：2020年5月23日現在

[資料：編集1]

	2018	2019	2020
Pending / Withdrawn	39	62	350
Accepted	304	250	44
Rejected	1213	1193	523
Grand Total	1556	1505	917

※本年3月以降、投稿数が急激に増加している。

(3) 和文機関誌との同梱依頼

広報委員会より72巻7月号との同梱依頼を受領した。詳細は広報委員会よりご説明がある。本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(4) 産婦人科未来委員会より掲載依頼

産婦人科未来委員会より「臨床研修指導補助ツール」について和文機関誌への掲載依頼があった。スライド等カラー掲載を希望されているが、カラー掲載費用は未来委員会にご負担いただく。本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(5) 杏林舎のテレワークに関して

COVID-19の影響を鑑み、杏林舎が6月20日までテレワークを延長することになった。機関誌発行等に若干の遅れが出る可能性がある。

加藤聖子副理事長「COVID-19関連の論文の投稿が増加している。AOFOGの周産期委員会の委員長からのレビューと日本からは早川先生のレビューがきている。早めにJOGRに掲載する予定である。」

5) 渉外（岡本愛光理事）

(1) TAOGより、台湾衛生福利部と外交部の協力を得て、3万枚のマスクを本会に寄付するとの連絡を受けた。

岡本愛光理事「マスクの配布については、COVID19陽性者の受け入れを表明した分娩取り扱い施設に限りホームページから申し込みを受付けることとした。5月29日昼までの締め切りで計68件の申し込みがあった。」

(2) AOFOG 関連

① 2021年3月8～11日にインドネシアバリにて開催が予定されていたAOFOG Congress 2021が、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2022年5月23～26日に延期となった。これにより、韓国にて開催が予定されていたAOFOG Congress 2023が2024年に延期され、翌2025年にCongress開催はなく2026年開催となる。また、今年度AOFOGへ送金済みの会費は来年度に持ち越しとなる。 [資料：渉外1]

②AOFOGからの要請を受け、AOFOG Action Plan meeting（2020年11月7日、於：東京）開催の提案をAOFOGへ送付した。

(3) 8月28～30日にシンガポールにて開催が予定されていた Singapore International Congress of O&G 2020 が2021年に延期となり、Exchange Programにより本会から派遣を予定していたスピーカー2名（東京大学:永松健医師、北里大学:吉野修医師）の派遣が来年に延期となった。

[資料: 渉外 2]

(4) FIGO の Web による会議が5月28日、29日に開催され、日本からは落合和徳先生と岡本愛光理事が参加した。会議ではFIGOのミッション完遂のための戦略についての検討、世界の各地域のCOVID-19の感染状況の報告があった。アジアのCOVID-19の感染状況について落合和徳先生から報告がなされた。FIGOの最優先のミッションは子宮頸癌の撲滅であり、ワクチンによる予防接種とその教育をどのように拡大していくかが話し合われた。

落合和徳第28代 AOFOG 会長 「AOFOG 総会が延期となったが、日産婦に引き続きご協力をいただきたい。AOFOG Action Plan meeting を11月に予定しているが、COVID-19の状況によってはWeb会議となる可能性もある。演者のご推薦も改めて日産婦に相談する予定である。」

6) 社 保 (万代昌紀理事)

(1) 会議開催

令和2年度第1回社会保険委員会

7月31日(金)【予定】

(2) 「産婦人科医のための社会保険ABC第5版」(2017年2月3日刊行、メジカルビュー社)に2018年、2020年の診療報酬改定を反映し、改訂第6版の刊行準備を進めることとなった。

万代昌紀理事 「発行部数は2,000程度であり多くないことに加えて、改訂作業は大変労力を要するものであり、今後も改訂を継続すべきかどうか意見をいただきたい。日本産婦人科医会からも社会保険診療報酬についてまとめたものがでている。」

木村正理事長 「今後も検討の継続をお願いしたい。」

(3) 日本医師会疑義解釈委員会より、医薬品の供給停止予定品目(31 疑 2033)の検討依頼を受領し、本会理事および社保委員による検討結果、スプレキアMP皮下注用1.8を供給停止予定品目から外すよう要望した。

(4) 保険診療でのロボット支援下手術症例の登録について、NCD (National Clinical Database) のシステム開発が遅れている旨、本会HPより会員へ通知した。6月中の開始を予定している。

(5) 日本医師会

日本医師会長より、日本医師会疑義解釈委員会の次期委員推薦準備依頼を受領した。

正式な依頼書は7月初旬に受領予定。

[資料: 社保 1]

7) 専門医制度 (八重樫伸生理事)

(1) 会議開催

第1回研修システム小委員会

5月11日

第1回中央専門医制度委員会

5月17日

(2) 2020年度専門医認定二次審査について [資料: 専門医 1-1~1-3]

八重樫伸生理事から、2020年度産婦人科専門医認定二次審査の実施案の説明があった。

宮城悦子特任理事「18人を2会場で実施を予定しているが、費用の援助をしていただけるかどうかを含めて意見を伺いたい。」

八重樫伸生理事「18名くらいであれば1会場で良いと考える。なるべく費用の安い大学や医師会館などの会場で実施していただきたい。会場については、今後アンケート調査を実施して全国の状況を把握した上で、どの程度の援助が可能であるかを検討したい。」

亀井良政理事「面接官の手配を隣県に依頼する場合、具体的にどのように依頼すればよいのか。」

八重樫伸生理事「埼玉県は受験者数約16人に対して3-4人の面接官となると考えられる。県内の確保は可能であると考えますが、もし面接官の確保が難しい場合は個別に相談をいただきたい。」
本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(3) 日本専門医機構

①専攻医の産婦人科研修開始年度ごとの施設区分の解釈について [資料: 専門医 2]

八重樫伸生理事「専攻医が研修プログラムに応募した時の内容と異なり、研修開始後に連携施設が基幹施設に変更される、連携施設が条件を満たさなくなり連携施設（地域医療）へ変更される、連携施設が新たに認定されるなどの場合がある。2020年度以降に専門研修を開始する専攻医については、実際に当該施設で研修を行なう時点での施設区分に従って認定するものとし、毎年4月1日時点での施設区分に従い、研修期間を登録、設定することとした。」

藤井知行監事「地域医療の基準に関して、日本専門医機構と本会の解釈に違いがある。どちらの基準とするのか。」

八重樫伸生理事「本会の基準で考えている。」

鮫島浩理事「基幹施設を1県に2つ以上設置することとなっており、地域医療しか行われていない施設が基幹施設になっている現状がある。この点を考慮いただきたい。」

八重樫伸生理事「基幹施設を1県に2つ以上設置することにはご指摘のように無理があり、機構に問題提起をすることを考えている。2つ目の施設をどのように考えるかに関しては原則論にとらわれずに柔軟に対応していきたい。」

木村正理事長「他学会でも同様の問題が生じている可能性があり現在調査中であるが、他学会と手を組んだ形で機構に要望書を提出することを考えている。」

②2021年度専門研修プログラム一次審査について [資料: 専門医 3]

2021年度に研修を開始する専攻医のための専門研修プログラムの日本専門医機構への登録申請を開始する。学会での一次審査の後、機構での二次審査が行われる。

藤井知行監事「2021年度についてはシーリングはなしと考えてよいか。」

八重樫伸生理事「その通りである。」

木村正理事長「他学会には3月までに通知がきていたので産婦人科においては来年度のシーリングはないと考えてよい。」

8) 倫理委員会（三上幹男理事）

(1) 会議開催

第1回 登録・調査小委員会の所管、業務内容についての検討WG (Web 会議)

4月26日

令和2年度第1回倫理委員会 (Web 会議)	5月12日
PGT-M 小委員会 (Web 会議)	6月3日【予定】

(2) 本会の見解に基づく諸登録 (令和2年4月30日)

- ・ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：101 研究
- ・体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：620 施設
- ・ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：620 施設
- ・顕微授精に関する登録：589 施設
- ・医学的適応による未受精卵、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：128 施設
- ・提供精子を用いた人工授精に関する登録：12施設

(3) 着床前診断に関する申請・認可について

- ・施設申請164件《承認133施設 (うち20施設は条件付)、照会15施設、審査中16施設》
[資料:倫理1-1]
- ・症例申請：953例《承認810例、非承認29例、審査対象外36例、取り下げ5例、照会66例、保留4例、審査中3件 (5/8現在)》(承認810例のうち122例は条件付)
[資料:倫理1-2]

三上幹男理事「施設申請において、着床前診断に関する審査小委員会で同一の認定遺伝カウンセラーが多くの施設を兼ねていることが問題となり、倫理委員会で議論した。現行の見解では認めざるを得ないため、承認とした。」

(4) 登録・調査小委員会の所管・業務内容に関する検討WGについて [資料:倫理2-1, 2-2]

三上幹男理事「第1回登録・調査小委員会の所管・業務内容についての検討ワーキンググループが4月23日に大須賀稔委員長のもとで開催された。このワーキンググループで話し合われた内容について倫理委員会でも議論を行った。その進捗状況を報告するとともにご意見を伺いたい。」

大須賀稔理事「データベース事業はすでに膨大な作業内容となっており、多くの費用も必要となっている状況にある。多くの先生から意見をいただきたい。」

三上幹男理事「ART登録は症例件数が多いうえに手作業の部分が非常に多く、膨大な事務的作業量となっている。腫瘍登録と周産期登録は岩手医大の高橋先生の支援がある。周産期登録はTOITUの協力で入力ソフトが出来上がっている。ぜひご意見をいただきたい。」

亀井良政理事「ART統計の先天異常のデータのブラッシュアップを毎年担当しているが、大変な作業である。登録時に疾患名を細分化してほしい。」

三上幹男理事「ご指摘のように手作業の部分が多くなっており、作業効率の改善が必要である。この改善を行うには財源の確保が必要である。」

池田智明理事「周産期登録でも各施設は大変苦勞している。手作業に関しては、事務員を雇っている施設もあれば研修医が入力している施設もある。データは学会の根幹を成すものであり非常に重要であり、登録事業を充実させる必要がある。」

三上幹男理事「ワーキンググループで検討を続けていきたい。」

(5) PGT-A臨床研究の進捗状況 [資料:倫理3]

三上幹男理事「5月1日現在でPGT-A 臨床研究参加施設は78施設である。PGT-A と PGT-M の施設認可基準について着床前診断の見解の改定を検討すべきである。Non-invasive PGT-A に関しては、精度が不十分であることなどから現時点ではPGT-A 臨床研究参加施設に対して行わないように説明会を開く、あるいはHPなどで広報を行い周知していく予定である。」

(6) PGT-M を実施している ART 施設の施設倫理委員会について [資料：倫理 4]
三上幹男理事「PGT-M の施設倫理委員会での議事録を作成していない施設があり見解違反との判断で理事会に報告することになった。この施設に対してまずは事情聴取を行い、そのうえでどのように対応するか判断したい。すべての PGT-M 登録施設に対して注意喚起の文面を発出することを考えている。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(7) 「着床前診断」に関する見解改定についての検討ワーキンググループ設置について [資料：倫理 5]

三上幹男理事「PGT-M, PGT-SR に PGT-A が追加され、見解の内容を見直す必要があると考えている。このため、見解改定のための新たなワーキンググループを設置したい（委員長：織田克利先生）。」
本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(8) NIPT 指針の修正・進捗について [資料：倫理6-1、6-2]
三上幹男理事より、NIPT 指針の改定事項、NIPT 実施施設認定と NIPT を含む「出生前に行われる遺伝学的検査と診断に関する見解」の今後の進め方について提示した。

小西郁生顧問「小西班はコロナの問題もあり、現在活動を休止している。このように産婦人科から道を切り拓いていき、コンセンサスが得られれば次の段階にすぐに進めると考えている。細かいところは小西班からもサポートする。」

本件について特に異議はなく、改定指針、細則、今後の進め方について全会一致で原案通り承認された。

(9) 「出生前に行われる遺伝学的検査および診断に関する見解」の見直し「出生前カウンセリング」の語句についての検討委員会について [資料：倫理 7]

三上幹男理事「メンバー構成（委員長：関沢明彦理事）を提示したい。」
本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(10) 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会について
令和元年 12 月 18 日（施設認定・登録部会解散日）付 福井大学

(11) 配偶子提供についての経緯と今後について [資料：倫理 8]

三上幹男理事「海外で卵子提供を受けた胚の取り扱いに関する問い合わせがあった。今後配偶子提供による生殖補助医療のあり方について議論を再開する必要がある。」

吉村泰典顧問「現状では法整備が整っておらず、配偶子提供についての是非の判断ができていない。本会は卵子提供、精子提供による体外受精に関してはコメントをしていない。今後、本会としての考え方を明らかにして、国に相談していく時期になっていると考える。」

久具宏司副議長「卵子提供に関して、日本だけが遅れた状況になっているわけではない。卵子提供を禁止している国もある。」

小西郁生顧問「PGT-M の倫理審議会の今後の予定はどのようなになっているのか。」

三上幹男理事「次回は 11 月 1 日に予定している。」

9) 教育 (関沢明彦理事)

(1) 会議開催

第1回教育委員会 (Webにて)	5月29日
試験問題作成委員会コアメンバー会議 (Webにて)	5月中に3回開催
用語集・用語解説集改訂第5版打合せ会 (Webにて)	6月12日【予定】

(2) 書籍頒布状況報告 2020年5月22日現在

	4/23 理事会報告	～5月22日	合計
産婦人科研修の必修知識 2016-2018	1,115	16	1,115
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き	672	66	672
産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集	665	10	665
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集	789	16	789
うち必修知識ダウンロード	984		984
用語集・用語解説集改訂第4版 (書籍版)	704	24	704
用語集・用語解説集改訂第4版 (電子版付)	858	47	858
うちダウンロード済み	415		415
専門医試験例題と解説 2016	1,334	51	1,334
専門医試験例題と解説 2017	740	77	740
専門医試験例題と解説 2018	1,311	88	1,311
専門医試験例題と解説 2019	1,139	120	1,139
専門医試験例題と解説 2020		680	680

(3) 2020年度専門医筆記試験について

今回のCOVID19の影響を鑑み、集合委員会の開催を見合わせる事となった。このような状況が初めてではあるが、予定通りに進行すべく対応している。

(4) 書籍等発刊に関して

- ①杏林舎がCOVID19の影響で、6月20日までテレワークになることになった。発刊書籍処理等に遅れの出ないように調整を行っている。
- ②産婦人科専門医のための必修知識については、順次校正を行っている。9月には予定通り発刊できるように調整している。
- ③用語集・用語解説集改訂第5版について各専門委員会にコアメンバーの推薦をお願いした。杏林舎提案の査読の仕方などを確認しており、遅くとも夏くらいにはどこに作成を依頼するかなど、決定したい。

(5) Exchange program について

関沢明彦理事「RCOG, ACOG, DGGG, JKTの4つのプログラムに派遣予定であり、2020年9月に募集、2021年の学術集会で選考を行い、2022年に派遣する予定である。コロナの影響で学会が中止と

なった場合に翌年に持ち越すことはしないことを明記して募集する。中止となった場合に奨学金で代替の国際学会への参加を補助してほしいとの意見があり、検討したい。」

(6) 書籍販売について

関沢明彦理事「新しいガイドラインが発刊され、学術集会で販売できなかった。KaLib Store と学会事務局で販売しているが、大量の注文のため、学会事務局の負担が大きくなっている。今後学会における書籍販売のあり方について検討していきたい。」

10) 地方連絡委員会（渡利英道委員長）

渡利英道委員長「コロナの影響で Web 会議となり、従来どおりの地方連絡委員会の開催は難しい。7 月頃に ZOOM での会議を予定したい。本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。」

V. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（工藤美樹委員長）

(1) 会議開催

第 1 回広報委員会	7 月開催予定
------------	---------

(2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告

[資料：広報 1]

工藤美樹委員長「過去 1 年間で 6 件の採用となっている。」

(3) ホームページについて

①ホームページアクセス状況について

[資料：広報 2]

工藤美樹委員長「月平均で約 70 万件である。」

②バイエル薬品株式会社のバナー広告について、2020 年 3 月末で掲載終了が決定した。

(4) HUMAN+/Baby プラスについて

①4 月末まで、HUMAN+の冊子販売数は累計約 18 万 5 千冊、アプリ版 Baby プラスのダウンロード数は累計約 41 万 6 千件である。

②アプリ版Babyプラスにおいて、新型コロナウイルスに関するPUSH通知配信日に、いずれもPV数は大きく伸長し、緊急事態宣言発令後は過去最高のPVを更新した。

[資料：広報2-1]

(5) 女性の健康週間事業

①2020 年女性の健康週間丸の内キャリア塾スペシャルセミナー開催報告

[資料：広報 3]

②2020 年女性の健康週間丸の内キャリア塾スペシャルセミナー採録記事同梱について

3 月 4 日に開催した丸の内キャリア塾スペシャルセミナーの採録記事を作成し、4 月 9 日の日本経済新聞夕刊（全国版）に掲載した。本事業の活動を多くの産婦人科医師に周知するため、この採録記事を和文機関誌第 72 巻 7 号へ同梱したい。編集へは依頼済みである。 [資料：広報 4]

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

2) 災害対策・復興委員会 (永瀬智委員長)

(1) 会議開催

第1回災害対策・復興委員会	5月28日(木)
---------------	----------

(2) PEACE の COVID-19 感染対策の取材申し込みについて

エムスリー、NHK、日経メディカルから、PEACE の COVID-19 感染対策の取り組みについての取材および記事掲載の依頼があり、永瀬智委員長、木村文則主務幹事にて対応を行った。

また、第72回の学術講演会の委員会企画の津田尚武委員の COVID-19 の対応を紹介した講演内容について、メディカルトリビューン社より記事化する依頼があり、演者の津田尚武委員と永瀬智委員長、木村文則主務幹事で確認を行った。

(3) PEACE に入力された COVID-19 感染対策について [資料：災害対策1]

各施設の更新状況とコメントを収集して解析を行った。また、指定感染症に指定されることによる医療者へ課せられる義務と PEACE を用いた COVID-19 の医療者間の情報共有に関する平岩先生の見解を確認した。なお、全国の緊急事態宣言解除を受けて、PEACE の災害モードについて委員会内で協議し、5月29日に平時モードに戻した。

平岩敬一弁護士「感染症法にコロナに関しての規定があり、新感染症として指定を受けている。情報公開について医師の制約はない。医師の守秘義務に抵触することなく、個人情報保護法を遵守して PEACE を用いて医療者間の情報提供をすることは法に抵触するものではない。情報を公開することによって、一般患者が診療を受けることを敬遠し、病院等に損害を与えることも考えられる。そのような危険があるので、情報を公開する場合には、開設者の同意、地域医療関係者との協議等も必要と考える。」

加藤聖子副理事長「里帰り分娩の受け入れ可否の情報を得る手段として PEACE を活用することもできると考えている。」

3) 診療ガイドライン運営委員会 (生水真紀夫学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (板倉敦夫委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」頒布状況について (5月22日現在)

	4月23日理事会報告	～4月26日	合計
書籍版	13,515	3	13,518
書籍版(電子版付)	2,503	2	2,505
うちダウンロード済み	2,117		2,117

② 「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」頒布状況について (5月22日現在)

4月27日頒布開始 6,553冊

(2) 婦人科外来編委員会 (2020 小林浩委員長、2023 三浦清徳委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2017」頒布状況について (5月22日現在)

	4月23日理事会報告	～4月26日	合計
--	------------	--------	----

書籍版	7,973	2	7,975
書籍版(電子版付)	2,060		2,060
うちダウンロード済み	1,804		1,804

②「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2020」頒布状況について (5月22日現在)
4月27日頒布開始 4,833冊

(3)伝達講習会について

ガイドライン発刊年に開催することになっている「伝達講習会」を、WEBによる動画配信もしくは media による動画配布の形で開催したい。

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(4) 2023年版作成委員会並びに評価委員会について

[資料:ガイドライン 1]

前回の理事会で報告した委員名簿に誤りがあったので訂正版を報告した。

4) コンプライアンス委員会 (竹下俊行委員長)

(1)2020年3月に改定された「日本医学会 COI 管理ガイドライン」に沿って、本会の「利益相反に関する指針」ならびに「利益相反に関する指針運用細則」について改定を行いたい。

[資料:コンプライアンス 1,2]

[当日資料:コンプライアンス 3,4]

加藤聖子副理事長「現在ガイドラインの作成中であるが、執筆者が関連の製薬会社から寄付金や講演料をもらっている場合でも、開示しておけば問題ないと考えてよいか。」

竹下俊行委員長「基本的にはそういうことになると思う。ガイドライン作成委員長に関しては、特定の企業から多額の寄付金を得ている場合には委員長にはふさわしくないということが COI 管理ガイドラインに記載されている。」

永瀬智理事「ガイドラインの場合ほどの時点を基準に開示すればよいのか。」

竹下俊行委員長「ガイドライン作成の委員を決める段階で COI のチェックをしなければならない。」

永瀬智理事「ガイドライン作成開始時点での COI 開示でよいということか。」

竹下俊行委員長「そうである」

藤井多久磨理事「診療ガイドラインの委員を決める段階で COI チェックのステップがなかったことを懸念している。COI 開示の基準として本会では 100 万円以上となっている。COI 開示で誤解を生じる可能性があるのではないか。開示基準の金額を上げることも検討していただきたい。」

青野秀雄事務局参与「本会の開示の金額基準は日本医学会の基準とほぼ一致させている。」

平岩敬一弁護士「今回は日本医学会の基準に合わせることであり、以前より厳しくなっている。基本的に COI は開示しておけば問題ない。」

藤井多久磨理事「所属長の COI を取得することについて確認したい。」

竹下俊行委員長「おそらく産婦人科領域の COI のみで良いと考える。」

木村正理事長「本会の COI の指針の改定案には『必要に応じて』との記載があり、当該領域における COI で良いと考える。」

5) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会 (榎本隆之委員長)

(1)会議開催

令和2年度第1回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会	5月25日(月)
令和2年度拡大サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会	8月22日(土)【予定】

(2) 令和元年度 拡大サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会の報告書を都道府県庁、全国の大学病院(病院長・産婦人科教授)、都道府県医会、厚労省等に365冊発送する予定。

(3) 北海道大学病院で、COVID-19の感染拡大への対応としてオンライン妊婦健診・診療が開始された。
[サステイナブル1-1、1-2]

(4) 医師の働き方改革推進に関する議論の進捗状況について [サステイナブル2]

海野信也特任理事「働き方改革の検討会において、大学の臨床系教員の働き方については枠に入らないので検討してほしいと主張し続けてきたが、全体の枠組を決めることが先決とのことで検討が先延ばしになっていた。今回ようやく日本医師会から働きかけてくれたという状況である。厚労省だけではなく、文科省との関連もあり、非常に複雑である。兼業副業問題も大学の臨床系教員が大きな影響を受ける。」

万代昌紀理事「コロナの問題で遠隔診療に対する意義が高まっている。どういう形で保険診療にあげていくのかを検討するべきである。」

馬詰武幹事「保険にどう組み込むかを今後検討していきたい。」

海野信也特任理事「馬詰先生が取り組まれた遠隔診療は妊婦健診についてである。妊婦健診を遠隔診療で行う場合、補助金が市町村からでるかどうかがポイントとなる。」

亀井良政理事「北海道大学のiCTGシステムを使って検討を始めた。今後検討結果を報告したい。」

6) 産婦人科未来委員会(渡利英道委員長)

(1) 会議開催

第1回産婦人科未来委員会(WEB開催)	5月22日
---------------------	-------

(2) 臨床研修指導補助ツールについて

若手委員が中心となって作成した臨床研修指導補助ツール(スライド集およびQ&A)を学会ホームページ(産婦人科医の扉:4月1日リニューアル)に掲載した。

(3) スプリングフォーラム、POP2、サマースクールがすべて中止となったため、以下のような代替案を検討中である。

①産婦人科プロモーションビデオの作成

産婦人科診療4分野において、医師の働き方や患者への関わり方を示す動画の作成。

②遠隔未来相談所(POP2代替案)

ZOOMなどのweb会議サービスを利用し、臨床研修医2年目に向けたマッチング進路相談。POP2の未来相談企画に準じた内容。参加者の相談内容を事前に調査し、適任の若手委員をマッチングさせ、進路相談を行う。

③産婦人科遠隔サマースクール(SS代替案)

過去のサマースクールで得たノウハウを生かし、遠隔で実施可能な参加型企画を8月頃に開催を検討。

(4) 下記のような提案が若手委員会より提出された。まだ、流動的ではあるが、未来委員会としては予算など見極めつつ若手委員の意向を尊重したいと考えている。関係委員会の先生方にはご協力をお願いしたい。

① スプリングフォーラム

2021年3月に、東京慈恵会医科大学での開催を検討していく。COVID-19の状況により遠隔開催へ対応を進める。

② プラスワンプロジェクト

2020年はCOVID-19のため中止となった。2021年5月15日(土)16日(日)の2日間で東京都・フクラシア東京ステーションで開催予定。COVID-19の影響をみて開催を検討する。

③ サマースクール

2020年はCOVID-19のため中止となった。2021年8月21日(土)22日(日)の2日間にわたり、千葉県・かずさアカデミアパークで開催予定。パラリンピックの開催期間であるため交通・宿泊事情への配慮を要する。

④ 若手委員会ホームページ「産婦人科医への扉」

HP内にガイドラインリンクなどを掲載し、学生・研修医にとって情報収集の玄関口となるHPを目指す。専攻医の声を定期的に掲載し、アクセス数の向上を図る。

⑤ リクルートアンケート医学教育

「臨床研修医の指導に関するQ&A」の紹介を日産婦雑誌8月に掲載する。本年の専門医試験後、リクルート関連のアンケートを受験者に実施したい。実施方法を専門医制度委員会と協議する。

⑥ リクルートに寄与する動画作成

学生・研修医に産婦人科の魅力を伝える動画を作成する。制作会社を検討し、作成をテレコムスタッフ社へ依頼することとした。

⑦ 2020年特別企画 遠隔リクルート企画

- ・POP2の代理として臨床研修医2年目向けに、zoomを用いてオンライン相談回答企画を実施する。相談員として、若手委員に加えて若手委員OBOG、SS・POP2指導医からの協力を依頼する。
- ・SSの代理企画として医学生5～6年生+臨床研修医1年目を対象として、遠隔サマースクール(仮称)を実施する。9月の1か月間を企画実施期間とし、期間中に産婦人科医への扉HPに特別ページを掲載しリクルートメッセージを期間限定掲載する。また、期間中にWebセミナーとオンライン相談企画を実施する。

⑧ 地方学会からの寄付について

本年度用でいただいた各地方学会からのサマースクールならびにPOP2への寄付金は2021年開催に利用させていただきたいと考えている。

大須賀穰理事「リクルートの動画はどれくらいの時間のものを作成予定か。」

渡利英道委員長「5分前後の予定である。」

木村正理事長「制作会社に依頼しての動画作成はコスト的には大丈夫か。」

渡利英道委員長「80万円～100万円くらいであり、十分可能である。」

木村正理事長「遠隔で対話をする企画は時間がかかり、対応する委員の負担は大きいと考える。マンパワーの確保についてはどうか。」

渡利英道委員長「若手委員の意気込みが強く、若手を中心に行っていきたい。作成した動画はホームページにアップしたいと考えている。」

木村正理事長「各分野ごとの動画ではなく、全体で動いているという感じが強く出るほうがいいのではないか。」

渡利英道委員長「一体感が感じられるような動画をつくるべく、再度検討したい。」

平松祐司監事「毎年寄付金を地方学会に求めるのは学会としてどうか。一度検討すべきであると考ええる。」

渡利英道委員長「未来委員会で検討したい。」

榎本隆之理事「リクルート動画はホームページから閲覧するのか、各大学などにダウンロードしてもらって閲覧するのどちらなのか。」

渡利英道委員長「もともとはホームページでの閲覧を考えている。2007年に日産婦で作られたような動画も検討したい。」

榎本隆之理事「リクルートの最前線の先生方にアンケートを取ったりなどして、よりよい動画の作成を目指してほしい。」

7) リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会（海野信也委員長）

(1) 会議開催

第1回リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会（web会議）	5月29日
-------------------------------	-------

COVID-19がリプロダクティブ・ヘルスにどのような影響を与えているのかについて検討した。DV、虐待、望まない妊娠は増加傾向にあると考えており、今後まとめたものを報告したい。

8) 医療安全推進委員会（杉野法広委員長）

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和2年4月の医療事故調査の現況報告を受領した。
[資料：医療安全1]

(2) 日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援センターより、センター調査の協力学会として本会から令和2年度に協力頂ける先生方のリスト更新依頼を受領した。各ブロックより65名の先生方に受諾頂いた。
[資料：医療安全2]

9) 公益事業推進委員会（小林陽一委員長） 特になし

青木大輔副理事長「寄附金をいただいた企業名のリストは総会の前に役員の方の先生方に確認をいただくべきである。総会で開示することに関しては問題ないか。」

木村正理事長「COIのガイドラインからすると、本会としてのCOIの開示は必要であると考えますが、COIの正式な開示がないままに総会で企業名のみが公表されることは問題であると考えます。今回はCOIに関して一言いっていただくくらいに止めておくほうがいいのではないかと。」

藤井知行監事「企業から企業名を公表することの同意を取得しているか。」

加藤聖子副理事長「寄附をいただいた企業へ感謝状などを考慮してもいいのではないか。」

小林陽一理事「すでに定時総会の資料が総会出席予定の先生方に配布されており、その中に企業名の記載がある。」

加藤聖子副理事長「むしろ企業名を掲載するべきであると考える。」

吉田隆人事務局長「寄附をいただいた企業名の掲載に関しては同意を得ている。企業名と寄附金額は昨年の資料にも掲載されている。」

木村正理事長「そうならば総会資料については問題ない。総会前の臨時理事会で企業名のリストを資料としてご報告いただきたい。COIの開示の方法に関しては今後検討していただきたい。」

10) 子宮頸がん検診・HPV ワクチン促進委員会（宮城悦子委員長）

(1) 本会 HP『子宮頸がん と HPV ワクチンに関する最新の知識と正しい理解のために』の改定について

宮城悦子委員長「今後時期をみてホームページで公開したい。」

VI. その他

青木大輔副理事長「塩酸リトドリン製剤と硫酸マグネシウム製剤併用の件はPMDAに報告された方がいいのではないか。」

池田智明理事「日本周産期・新生児医学会からPMDAに報告されている。」

平松祐司監事「産婦人科診療ガイドラインには、過去の版に関与した作成委員名、評価委員名の記載がない。過去の版の作成に関与した先生方の苦勞に対し敬意を表するためにも、今後記載を検討すべきである。」

生水真紀夫学会側調整役「次回の改訂で検討したい。」

以上